

皮膚科

名古屋大学医学部附属病院

皮膚科

病院長名	石黒 直樹
所在地	〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地
交通案内	JR中央線「鶴舞駅(名大病院口)」下車 徒歩3分 名古屋営地下鉄「鶴舞駅」下車 徒歩8分



病院の特徴

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、『総合医学教育センター』を設置するとともに、2008年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、『卒後臨床研修・キャリア形成支援センター』として機能充実を図り、研修サポート体制の拡充を行った。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになった。すなわち、2年間の初期研修のみならず、後期・専門研修のキャリアパス整備とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言える。各種教育ツールを一括管理してシミュレーションによるトレーニングを進めるとともに、OJT(On the Job Training)を重視して臨床手技の習得が速やかに行われるように力を注いでいる。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋大学医学部皮膚科研修プログラム

【研修目標】

皮膚科医として信頼され、安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術の獲得を目標とする。

【研修期間】

5年

【研修スケジュール】

本プログラムは名古屋大学医学部皮膚科を基幹施設とする研修プログラムである。専攻医は基幹施設である名古屋大学医学部附属病院皮膚科にて最低1年の研修を行い、残る研修期間を連携研修施設にて行う。本プログラムは複数の研修コースを設定している(詳細は以下を参照https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/spProgram/program_058.pdf)。



▲手術室現場



▲外来の様子

主な連携施設

旭労災病院、稲沢市民病院、協立総合病院、県立多治見病院、陶生病院、小牧市民病院、中京病院、豊田厚生病院、名古屋掖済会病院、名鉄病院、東濃厚生病院、名古屋第一赤十字病院、常滑市民病院、安城更生病院、一宮市立市民病院、名古屋医療センター、豊橋市民病院、岡崎市民病院

メッセージ

指導医
教授 秋山 真志



私たちは臨床、教育、研究という3つの要素にバランスよく取り組み、教室員の先生方に気持ちよく、十二分に実力を発揮していただける教室作りを目指したいと考えております。臨床においては地域で最高レベルの医療を患者さんに提供できる診療体制づくりを目指して、患者さんの多い一般的な疾患をしっかり治療することから、比較的稀な疾患に対する高度先進医療まで、幅広くカバーできるよう教室員一同、一生懸命努力いたしております。教育については、患者さんの痛みのわかる良医の育成を目指し、さらには、大学や連携施設の皮膚科で指導者として活躍する人材を育てることも重要な使命と考えております。研究面では、真に臨床に役立つ研究、患者さんの利益に結びつく研究を行いたいと思います。実際の診療に結びつく研究テーマがこれからの皮膚科学に求められている課題であり、若い先生方の研究に対するモチベーションの高揚につながると思います。これから皮膚科学を本格的に学ぼうという若い先生に対しては、無理せず、かつ、遠回りせず、一人前の皮膚科医になれる環境を提供することを第一に考えています。若い先生方はそれぞれの夢と希望を持っていると思います。ある先生は世界的な皮膚科の研究者になりたいと思っていますし、また、ある先生は、仕事と温かい家庭を両立させたいと考えているでしょう。みんなの夢の実現が、名大皮膚科の発展につながると信じています。

募集要項

採用予定人数	18人	
給与/月額	月額約20万円に加え、該当する場合に手当(通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、特殊勤務手当(夜間診療業務手当等))を支給	
当直回数/月	約2~3回/月	
当直料/回	20,000円/回	
その他	平日日勤帯の外勤等(週1日まで)可	
応募連絡先	担当者	松本 高明
	電話番号	052-744-2314
	Eメール	tmatsumoto@med.nagoya-u.ac.jp

名古屋市立大学病院



病院長名	小椋 祐一郎
所在地	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
交通案内	地下鉄：桜山駅下車3番出口 直結 市バス：「市立大学病院」または「市立大学病院」下車

病院の特徴

当院は808床の病床、30の診療科を有し、地域の中核医療機関として日々安全で開かれた医療を提供しています。

外来診療棟、病棟・中央診療棟に続き、近年増加するがん患者さんに対し、高度な診断や先端治療を併用する集学的な治療が行えるように、平成24年には喜谷記念がん治療センター（東棟）を開院しました。がん診療拠点病院や救命救急センターの指定・認定を受けると共に、高度急性期病院・特定機能病院としての役割を果たすよう努めると共に、教育研究機関として優れた医療人の育成に努めています。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋市立大学皮膚科研修プログラム

- a～b: 研修基幹病院(名古屋市立大学皮膚科)を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で専攻医の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。
- c: 基幹型研修病院である他院で研修(連携病院)を行い、研修2年目から名古屋市立大学皮膚科(基幹病院)で研修。その後、連携施設で
- d: 研修。
皮膚外科コース:基幹型研修病院で1年間研修を行い、がんセンター等での悪性腫瘍、さらに形成外科で手術手技の研修を行い、さらに
- e: 連携施設で研修を行った後、基幹型研修病院で研修を行うコース。
基幹型研修病院1年、連携病院2年後、博士号取得のための研究を
- f: 開始するプログラム。
専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。あわせて、2年目、3年目は、臨床研修を行い、カリキュラム修了要件を満たす。

<研修モデル>

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	連携	連携	連携	基幹
b	基幹	連携	連携	基幹	基幹
c	基幹	基幹	連携	連携	連携
d	基幹	がんセンター等	形成外科	連携	基幹
e	基幹	連携	連携	大学院(臨床)	大学院(研究)
f	基幹及び連携	大学院(臨床)	大学院(臨床)	大学院(研究)	大学院(研究)

詳細は名古屋市立大学病院総合研修センターHPを参照

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kensyu-c.dir/specialist_prg/dept.html



主な連携施設

海南病院、春日井市民病院、江南厚生病院、名古屋第二赤十字病院、豊川市民病院、聖霊病院、名古屋市立東部医療センター、名古屋市立西部医療センター、いなべ総合病院、国立長寿医療センター、蒲郡市民病院、東名古屋病院、岡崎市民病院、さくら総合病院、中京病院、木沢記念病院、など10数カ所を研修連携施設とする皮膚科としては大型プログラム。

メッセージ

優れた臨床医となり、
一流の皮膚科スペシャリストへ!

指導医

皮膚科 部長 森田 明理



皮膚科のプログラムでは、全国でも有数の病床数(23床)をもつ名古屋市立大学病院を中心に、10数カ所の県内中核病院と連携。地域的な特色のある研修ができるように準連携施設も多数設置を予定しています。診療の幅は非常に広く、乾癬をはじめアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、白斑などの難治性疾患、手術を必要とする皮膚悪性腫瘍、難治性潰瘍など、県内外から多くの患者さんが来院しています。また梅毒回診や、膠原病内科との連携による膠原病・リウマチ性疾患の診療といった豊富な経験を積むことが可能。皮膚科疾患に関わることはすべて対応できる体制を整えています。

募集要項

採用予定人数	数十人 ※全領域あわせた人数であり、領域別の詳細の人数は各プログラム責任者と相談の上決定	
給与/月額	228,000円～478,000円 (勤務区分・各診療科の外勤の状況により異なる)	
当直回数/月	4回程度(診療科により異なる)	
当直料/回	24,000円～34,000円	
その他	年間有給休暇20日間、通勤手当、協会けんぽ、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等あり	
応募連絡先	担当者	医学・病院管理部教育研究課医療人育成係 専攻医募集担当
	電話番号	052-853-8545
	Eメール	s-kensyu@med.nagoya-cu.ac.jp

※名古屋市立大学病院で勤務する場合

藤田保健衛生大学病院

平成30年1月 新棟オープン



皮膚科

病院長名	湯澤 由紀夫
所在地	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
交通案内	名鉄線名古屋駅より(22分)前後駅下車、名鉄バス(15分)「大学病院」下車 / 桜通線名古屋駅より(35分)徳重駅下車、名古屋市営バス徳重13系統または名鉄バス(16分)「大学病院」下車 / 鶴舞線伏見駅より(21分)原駅下車、名古屋市営バス徳重13系統(33分)「大学病院」下車

病院の特徴

当院は名古屋市に隣接しており、道路を渡ると名古屋市という好立地にあります。多種多様な疾患に対応しており、DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」で当院のDPC件数が全国の大学病院の中で第1位となりました。(平成26・27年度)

皮膚科にはアレルギー、皮膚腫瘍、レーザー、乾癬の専門家がおり、外来患者数は1日平均138.6名、入院患者数は県下最大規模の1日平均26.4名であり、豊富な経験を積むことが可能です。また愛知県内の皮膚癌治療センターの1つであり、皮膚悪性腫瘍の年間入院手術数は約100件です。研究の面では、臨床に根差した研究を行い、数々の成果を報告しています。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

藤田保健衛生大学医学部皮膚科研修プログラム

【研修目標】

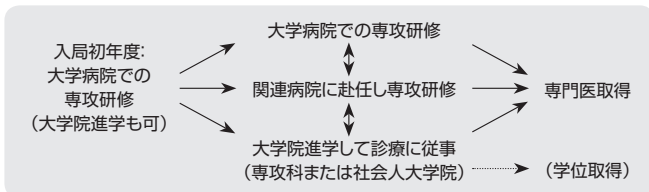
- 1.皮膚科医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得し、専門医を取得すること。
- 2.皮膚科の進歩に積極的に携わり、医療の推進に努めること。

【研修期間】

5年

【研修スケジュール】

藤田保健衛生大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、5年のうち2年程度を研修連携施設(関連病院)に赴任し地域医療、病診連携について学び、基幹施設での研修を補完します。また、研究を志す専攻医は研修期間の途中から大学院に進学することが可能です。



▲カンファランス



▲手術の現場

主な連携施設

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院、刈谷豊田総合病院、公立西知多総合病院、津島市民病院、西尾市民病院、大同病院、碧南市民病院

メッセージ

指導医
講座教授 杉浦 一充



教授1名、准教授2名、講師4名、助教1名の皮膚科指導医がいます。男性5名、女性3名で、30代半ばから40代後半のフレッシュな陣容がセールスポイントです。指導医の出身大学は多彩です。専門分野も多彩で、あらゆる皮膚疾患の診療について研修をすることが

できます。

近年、後期研修医(専攻医)は毎年一定数が本研修基幹施設で研修を開始されていて、研修基幹施設、研修連携施設で専門医を目指して研鑽を積んでいらっしゃいます。専攻医の出身大学も多彩です。

開業医、勤務医、研究医、いずれの道に進まれる先生方にも、指導医が一丸になって指導に当たります。先生方の充実した皮膚科研修をお約束します。

本プログラムにご興味のある研修医の先生は、いつでも気軽にご連絡ください。

募集要項

採用予定人数	5人(定員9人)	
給与/月額	基本給:月額268,840円 別途、賞与、その他各種手当、その他支給あり	
当直回数/月	0回/月(6~7回/月程度のオンコール体制)	
当直料/回	当直12,000円/回 オンコール手当7,000円/回	
その他		
応募連絡先	担当者	沼田 茂樹
	電話番号	0562-93-9256(皮膚科医局)
	Eメール	topicsinatopy@yahoo.co.jp

愛知医科大学病院



皮膚科

病院長名	羽生田 正行
所在地	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
交通案内	地下鉄東山線藤が丘駅下車 病院行き名鉄バスで約20分 東名高速名古屋ICから車で約15分

病院の特徴

当院は1974年に開院した大学病院です。充実した設備と最新の診療体制を整え、名古屋市東部の中核医療施設として地域医療に幅広く貢献しています。特定機能病院、高度救命救急センター、基幹災害医療センターなどに指定され、2017年5月1日付けでNPO法人卒後臨床研修評価機構の定める認定基準を達成していると施設として4年認定の更新がされました。

2014年5月に新病院が開院し、「元気ホスピタル～あなたを元気にする。私も元気になる」を病院のスローガンに、職員一丸となって日々精進しています。先進医療と最適な医療環境を提供し、患者さんが元気になって頂く事はもちろん、医療体制の分業化や本来業務」の特化を図る事で、医療従事者も効率的に働ける病院を目指しています。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

愛知医科大学皮膚科研修プログラム

【研修目標】

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

【研修期間】

5年

【研修スケジュール】

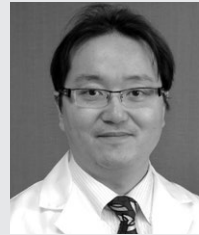
- 1・2年目: 主に愛知医科大学皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標(1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育)を学習し、経験目標(1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験)を中心に研修する。
- 3年目: 経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 4・5年目: 経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

主な連携施設

- トヨタ記念病院
- 総合大雄会病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院
- みよし市民病院
- 総合上飯田第一病院
- 準連携施設として社会医療法人厚生会 多治見市民病院

メッセージ

指導医
教授 渡辺 大輔



愛知医科大学皮膚科プログラムでは愛知医科大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、トヨタ記念病院皮膚科、総合大雄会病院皮膚科、みよし市民病院皮膚科、上飯田第一病院皮膚科、中京病院皮膚科を研修連携施設として、また、多治見市民病院皮膚科を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムです。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定しています。期間施設である。愛知医科大学病院では、一般診療に加え、専門外来として、ウイルス外来、発汗外来、乾癬外来、アレルギー外来を設けており、外来患者数は1日平均113名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能です。また、年間手術件数は250件を超えます。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出しています。若い医師も多く、明るく楽しい雰囲気で行なっております。当プログラムで明日を担う優秀な皮膚科専門医になっていただきたいと思えます。やる気のある方を募集しています!!

募集要項

採用予定人数	4人
給与/月額	基本給167,200円 +地域手当+調整加算手当等 約56,000円
当直回数/月	1~2回
当直料/回	(救急外来)宿直手当 約32,000円 (病棟)宿直手当 20,000円
その他	通勤手当、住宅手当、扶養手当、賞与(年2回)、社会保険等(日本私立学校振興・共済事業団(健保・年金))、健康診断 ※診療科から外勤の斡旋があります。
応募連絡先	担当者 渡辺 大輔
	電話番号 0561-62-3311
	Eメール dwatanab@aichi-med-u.ac.jp